

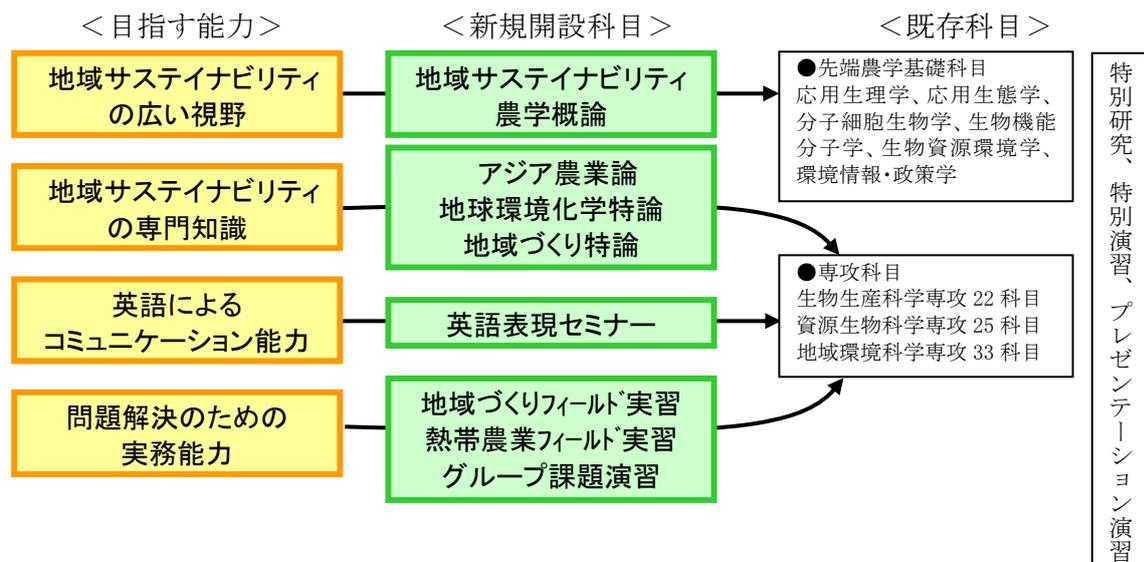
## 平成 19 年度「大学院教育改革支援プログラム」採択について 取組名称：「地域サステナビリティの実践農学教育」

文部科学省は、平成 19 年度より、「新時代の大学院教育」(平成 17 年 9 月 5 日中央教育審議会答申)、「大学院教育振興施策要綱」(平成 18 年 3 月 30 日文部科学省)等を踏まえ、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的・体系的な教育取組に対して重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化を推進することを目的として「大学院教育改革支援プログラム」を実施しています。この第一回の公募で、茨城大学から申請した教育プログラムが採択されました。

### 【取組の目的】

この取組は、21 世紀に求められる環境と調和した人類の持続的発展のために、農学を基盤とした食料・生命・環境に関する幅広い基礎知識と専攻分野における高度な専門知識・技術及び研究開発能力を備え、地域・国際社会で自立的に問題解決が出来る力を持った人材の養成を目的としています。

### 【取組の内容】



これまでの修士学位の修了要件に加えて、本教育プログラムで開設した科目のうち6単位を取得した者をプログラム修了として認定します。

### 【新しい教育方法】

これまでの教育の実質化の取組(授業科目の単位認定基準や修士論文審査基準の整備、教員の授業改善評価等)に加えて、

- ① 海外学術交流締結校との連携協力による実習科目(「熱帯農業フィールド実習」)及び演習科目(「グループ課題演習」)の開発、
- ② 地域住民や企業と連携した実践型授業科目(「地域づくり」に関する専攻科目、「地域づくりフィールド実習」)の開発と展開、
- ③ 学術交流締結校の教員を含めた国内外の有識者からなるワークショップ等の開催による FD 活動の推進、といった教育方法及び教員の教育力向上の取組を導入します。



### 【全学的位置づけ】

茨城大学では、平成 18 年度から、東京大学を統括大学とする「サステナビリティ学連携研究機構」のメンバーとして参加し、地球変動適応科学機関(ICAS)を設置してサステナビリティ学の研究教育に取り組んでいます。本研究科では、その主要なプロジェクトを担当しており、本提案は茨城大学における全学的な教育研究の展開と軌を一にするものです。本プログラムの取組によって、地域のサステナビリティを扱う新しい農学の展開が期待されます。

### 【期待される成果】

#### ①「保全」から「持続性（サステナビリティ）」への概念の展開

次世代を考える視野(50～100年の時間軸の視野)の育成が期待されます。

#### ②地域連携と国際連携の融合による新しい教育アプローチ

海外学术交流締結校との教育面での連携協力、地域を見る視野の国際性の開拓、そして海外で見せる学生達の逞しさをさらに伸ばす教育が期待されます。

#### ③自立的に課題発掘と問題解決できる力の育成

フィールド実習等の強化を通して、現場で考える力の育成をめざします。

#### ④茨城大学大学院の改革を先導するプロジェクト

茨城大学は、国際的な知の拠点と大学院教育の飛躍的強化をめざしており、本取組はその一環です。